

2019年6月1日

立教大学国際学術研究交流制度  
2019年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	異文化コミュニケーション学部・教授
	氏名	マーク・カプリオ
受入学部・研究科・研究所		異文化コミュニケーション学部
招へい 研究員	所属・職	Professor, Department of Global Languages and Cultural Studies, Linfield College 所属機関所在国：米国
	氏名	Christopher Keaveney
招へい期間		2019年4月28日～2019年5月28日（31日間）
研究経費		610,320円

2. 滞在中の活動

来日および離日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

\*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2019年4月28日 (日)	来日。立教ゲストハウスに泊まる。
2019年4月29日 (月)	受入教員の研究室で研究を行う。(5月3日まで)
2019年5月1日(水)	本学の図書館にて研究を行う。(5月24日まで)
2019年5月7日(火) (3限)	異文化コミュニケーション学部の丸山千歌先生の日本語教授法Aの授業で講義をする。学部生105人。会場は5224。講義名：「日本語教育対する観点」

2019年5月8日(水) 10:00~11:00	本学の国際化推進機構の菅野勝義さんとの会議。立教大学とリンフィールド大学の協定関係についての会議。既存協定の維持についての対談。会議場は立教大学のインターナショナル・センターのオフィス。二人。その後菅野さんがキバニー先生をインターナショナル・センター長に紹介した。
2019年5月14日 (火)(1限)	受入教員の International Conflict Studies の授業で講義をする。学部生8人。会場はX307。講義名:「第二次世界大戦中米国に強制収容所に拘束された日系人にとって野球の役割とその意味」。
2019年5月22日 (水)12:00-12:45	異文化コミュニケーション学部のランチ・セミナーで演説をする。教員3人。会場は15号館1010号室。演説名:「山本実彦と円本革命」。
2019年5月27日 (月)17:30~19:00	立教大学公開講演会で講演する。出席者55人。会場は14号館D401教室。講演名「日本武道館: 武道競技会場からロック聖地への道」。
2019年5月28日 (火)	成田空港から帰国。

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層(学生、大学院生、一般、教職員等)、会場の様子なども記載してください。

この招へい研究員としての訪問ではキバニー先生の研究にも先生が勤めていらっしゃるリンフィールド大学と本学の協定にも成果があった。キバニー先生の研究の面では講演と講義のため今までの研究プロジェクトを本学の生徒にも教員にも紹介していただいた。例えば、異文化コミュニケーション学部の講義では野球と文化について発表した。具体的に言えばキバニー先生が第二次世界大戦中日系アメリカ人のコミュニティでは野球はどの役割を果たしたかについて講義なされた。しかも異文化コミュニケーション学部のランチ・セミナーでは本学科の教員に自分の山本実彦と円本に関する研究を紹介した。講演と講義の後で質疑応答の機会があって研究のテーマについて実りある議論ができて先生の研究に影響があるに違いない。最後の公開講演会ではキバニー先生が現在行っている欧米ロックミュージシャンと日本の関係について発表した。出席者は学部生、大学院生、教員等であった。発表の後その講演の内容に対して活発な対話があった。キバニー先生は1ヶ月の滞在期間中、継続して本学の図書館にて研究を行った。

(特記事項) 本学との学術協定(学部間・研究所等間を含む)の締結または既存協定の維持・強化に資する活動を行った場合は、下記にその内容を記載してください。

尚、協定の面でもキバニー先生の訪問が本学とリンフィールド大学の大学間交流にいろいろ貢献があった。先ずもって異文化コミュニケーションの丸山千歌先生と対談してリンフィールド大学の日本語プログラムの事情について話した後キバニー先生が丸山先生の日本語教授法 A の授業ではアメリカでの日本語教育の現状と英語圏の学習者への日本語教育方法について講義をなさった。しかもキバニー先生は本学の国際化推進機構の菅野勝義さんと会議において協定関係に関して話をした。実はキバニー先生は今年でリンフィールド大学を退職なさるので退職後協定の維持に関して菅野さんと対談した。結局キバニー先生が退職後リンフィールド大学の日本語プログラムを担当する糸満雅之先生がキバニー先生の代わりに協定を運営することになっているようだ。

<講義の様子>

